

高島地域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会

第3回協議会 報告

日時：平成27年8月4日（火） 9:30～11:00

場所：高島市観光物産プラザ 2階 視聴覚室

本協議会は、国・滋賀県・高島市が共同して設置するもので、専門的な学識経験等に基づく助言を得ながら、琵琶湖及び地域内を流下する河川(普通河川を含む)の洪水により、将来にわたって人命被害を含む壊滅的な被害が生じる恐れのある地域を対象に、「自分で守る」「みんなで守る」「地域で守る」の視点に立った水害・土砂災害対策を検討することを目的としています。

1. 開 会

会長の比良岡高島市副市長より、水害・土砂災害に対しては、正しいリスクを把握するなどの平時の際の取り組みがより重要であること、また、非常時には、行政は的確な情報伝達とその応急対応、住民は防災意識を持ち自らで的確な避難行動をとれるようにしておくことが必要であるため、本協議会の取り組みを推進することは大変有意義であると考えているので、本日の協議会が実り多い場となるよう活発な議論をお願いしたいとの、開会の挨拶をいただきました。



2. 議 事

(1) 協議会で取り組む地区の選定と活動状況について（資料2、参考資料1）

■事務局説明

- ・協議会で取り組んでいく地区は、「重点地区」や平成25年台風18号で被害の多かった地区、土砂災害危険箇所での避難の際に通行止めになる地区など、3地区(野尻地区、永田地区、白谷地区)を選定したことを報告し、各地区の特徴や取り組みの方針を説明しました。

■質疑応答・意見交換（主な意見）

- ・H25 台風18号での鴨川破堤による永田地区の浸水被害は特殊な事例なので、これを基本とする
と過大な計画になってしまうのでは。
⇒一定の浸水深以下の所は、垂直避難を基本として対応できると考えています。
- ・重点地区については、1箇所1.5年を目標に検討していくとのことですが、目標に縛られること
なく、現場の状況を見極めて進めていただきたい。
- ・垂直避難で大丈夫かということが示せるのですか。
⇒流体力の評価で、木造家屋が流出する範囲は $2.5\text{m}^3/\text{s}^2$ 以上ぐらいという数値もあり、地形条
件などと合わせて、垂直避難で大丈夫か確認した上で地域へ入っていきたいと考えています。
- ・台風18号時の破堤による氾濫と内水氾濫とは、現象が違います。破堤した場合は逃げなくては
いけない、という特別な状況を考える中で、避難計画として垂直避難でいいと言ってしまうと

いいのか、若干引っ掛かりを感じます。

⇒築堤河川付近については、一定の流体力が考えられるので、立ち退き避難を考慮する必要があると考えています。

- ・特に土砂災害における垂直避難は、避難が困難な状況において、1階より2階の方が生存確率が高くなるような場合に、命を安全に守る状態へシフトしてもらおうという考え方と思いますが、避難せず2階に逃げれば大丈夫と安易に考えてしまわれぬようにする必要があります。場所と浸水深を見極めながら、丁寧に計画を立てて頂きたい。
- ・今年の台風11号で、隣の大津市で夜に避難情報が出された際、避難所の準備ができない、避難者数が読めない、また、住民もどうすればいいのかわからないことが実態だったと思います。この件については、避難の発表範囲が広過ぎたとの反省もあります。避難エリアについては学区単位から自治会単位に見直すなどの取り組みを他圏域で行っており、当該圏域も検討できればと思います。
- ・高島市でも土砂災害降雨危険度が上がってメッシュが赤くなれば、メッシュ内の集落に避難の呼びかけを行っていますが、山際で土砂災害警戒区域に指定されている箇所、指定されていない箇所ともに、集落単位で避難指示を出すのか、警戒区域に入っていなければ避難しなくていいのか、今後住民への説明の仕方をどのようにすればいいのかと思います。
- ・大島では谷筋や警戒区域でない箇所も崩れているので、警戒区域でないから安全とは限らない。区域指定の際の条件を丁寧に見直す必要もあるのかと思います。

■まとめ

協議会で取り組む地区の選定と活動状況について、事務局より説明したとおり進めていくことで承認されました。

(2) 避難判断のための基準について（資料2、参考資料2）

■事務局説明

- ・百瀬川及び知内川の避難判断のための基準水位について、検討結果を説明しました。
- ・鴨川について、平成26年台風11号で平成25年度に検討した基準水位を超過したが、水位の立ち上がりが高く、避難勧告等が円滑に行えなかったことから、別途雨量基準を設ける必要があると考え、その検討結果について説明しました。

■質疑応答・意見交換（主な意見）

- ・百瀬川の基準水位の生起回数が14年間で12回としていますが、最初の5年間に集中しており、年によって偏りがあるので、平均値で話した方が分かりやすいが、説明には気を付けて欲しい。
- ・知内川は14年間で2回しか超えておらず、概ね10年に1回くらいしか情報が出ないことになるので、存在そのものが忘れられないようにする必要があります。
- ・鴨川については、以前決めた基準ではうまくいかなかったもので、再度検討したということですが、設定した基準値については、判断の余地が残っていることを、関係者の方に認識してもらい、運用にあたっては幅を持たせる方がよい。ただし、基準がないと判断し辛いので、基準はこれでいいと思いますが、この数値を越えなければ大丈夫とは考えず、基準に達していなくても危険と判断すれば避難勧告を出していいと思います。
- ・百瀬川沿川では、参考資料2の生来川と百瀬川の間で二重線になっている所が一番危ないという認識でいいのですか。
⇒家屋がある一番危険と思われる箇所を選定しています。
- ・百瀬川について、「将来、天井川を解消する」となっていますが、その時期はいつですか。
⇒百瀬川の付け替え後ですが、現在、一定以上を超える流量が沈砂池を流下して生来川へ流れていることから、天井川を解消する時期については検討が必要と思われます。

- ・現在のしくみだと、生来川のほうが水位上昇する可能性が大きいのであれば、生来川のリスクも検討する必要性があるのでは。
⇒水位計の設置状況等、十分把握できていないところもあるので、検討するかどうかを検討させていただきます。
- ・知内川の断面があるが、危険水位はかなり低い水位となっている。この図の見方を教えてください。
⇒水位観測所が橋の地点にあり、堤防が橋のほうに向かって上がっていることから、危険水位が低く見えています。

■まとめ

避難判断のための基準について、事務局より提案のあったとおりとさせていただく。ただし、数字だけでなく、経過等も踏まえてマニュアル・計画書等への記載をお願いしたいとご意見をいただきました。

- ・鴨川の雨量設定については、水防団待機水位にもなっていないのに避難勧告を出すことになるので、地域の方にしっかりと理解してもらう必要があります。
- ・山のほうに降った雨が一気に流れてくれば、水位が急上昇することになる。神戸の都賀川の例もあるので、目の前の水位だけでなく上流側も見ておく必要があることを説明してほしい。

(3) 今後のスケジュールについて（資料3）

■事務局説明

- ・平成27年度、平成28年～31年度までの協議会、防災情報WG、水害・土砂災害に強い地域づくりWGの今後のスケジュール（案）について説明しました。

■質疑応答・意見交換（主な意見）

- ・次年度以降の取り組みはどのように考えているのですか。
⇒県全体で50地区あるので、年10地区で取り組みを始められるよう考えている。高島地域については、重点地区を精査して、来年度以降2地区ずつぐらいい入っていきたいと考えています。
- ・水位計の増設に関しては、どのような水位になったら、どう判断するのかといった基準がないと使い辛い。それらも含めて検討をお願いしたい。
⇒中小河川では、水位と雨量をセットで観測しないと状況がつかみ辛いので、両方設置するの
か等、市と調整しながら進めていきたい。
- ・他地区では、これくらいの高さまで水がきたら逃げ始める、というような地元の行動をヒアリングし、それを反映させるというようなことをやっていたが、高島地区ではどうですか。
⇒各地域に入り込めていないので整理できていません。
- ・量水標をつけた所の水位は分かりたいので、地元の方をお願いしてデジカメで撮ってもらい、それを送ってもらう等の検討いただければと思います。

■まとめ

今後のスケジュールについては、事務局より説明したスケジュールで進めていくということを了承いただきました。

以上